

# 登山月報



醍醐山



富士山 平成 28 年度 .....	2
氷雪技術研修会、主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会報告	
日本ユース選手権ボルダリング競技大会報告 .....	3
ロシア女性クライミングイベントの受け入れ報告 .....	3
第 88 回 Mountain World .....	5
<b>新連載</b> 「山の日」制定記念 一ふるさとの山を登ろうー .....	6
平成 28 年度定時総会報告 .....	7
平成 28 年度理事会（第 1 回）報告 .....	8
理事会（第 2 回）報告 .....	9
UIAA 登山部会プラハ会議を終えて .....	11
一次期登山部会・部会長の選出ー	
新刊図書紹介 .....	12
JMA、寄贈図書、編集後記 .....	13

# 富士山 平成28年度 氷雪技術研修会、主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会報告

平成28年4月29日(金)～30日(土)に富士山で氷雪技術研修会及び主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会が5合目佐藤小屋および5合目付近の雪渓にて開催された。

今回は研修7名、A級主任検定員3名、上級指導員養成講習6名、講師6名、山梨県スタッフ4名の計26名での開催となった。

今年はどこもそうでしたが富士山も異常なほど雪が少なく研修場所にも苦労しました。そのおかげで、スバルラインは開通していましたのでアプローチの時間短縮になった。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(記：指導委員会 野村善弥)

## 受講生 感想

平成28年4月29日～30日、氷雪技術研修会・A級主任検定員養成講習会・上級指導員養成講習会が富士山5合目(佐藤小屋近辺)で開催され、私は氷雪技術研修会へ参加致しました。

1日目は、昼に富士山5合目佐藤小屋へ到着後、他の講習会参加者と合同で屋内にてスタンディングアックスビレイ(SAB)の講習があり、協会指定の最新のSAB手法を研修しました。

その後、屋外にて雪壁をピッケル1本&アイゼン無しで登る雪壁登攀の基本的技術を学びました。

2日目は、朝からピッケル&アイゼン装着による雪壁登攀、雪面の基本的な歩行技術訓練を行った後、滑落停止の練習を行いました。緩やかな斜面でしたが簡易ソリを使いスピードを上げて停止訓練を行うなど色々な方法を使って練習を実施しました。

午後からは、雪上支点の構築方法を研修しました。小枝を集め束にしたものをアンカーとして使用する方法、土嚢袋へ雪を詰めてアンカーとする方法、スノーボラードによるアンカー構築を実施しました。

私は、三重県という温暖かつ標高の低い山しかない地域に在住しているため、本格的な冬山経験が乏しいため本研修の受講を希望したものです。

私にとって受講の主な目的である滑落停止については、足を他の方に引っ張ってもらってピッケルの効きを試すなど色々な手法を使ってじっくり練習することができ非常に有効な内容となりました。

2日間とも天候に恵まれ素晴らしい景色の中、存分に氷雪技術の練習をさせていただきました。研修班を主に指導いただきました堤信夫講師は、私が地元遭難対策委員として以前からレスキューやロープワーク技術を学習する教科書でありバイブルと感じていた書籍の著者であることを当日初めて知り、とても感動いたしました。時には厳しく指導いただき非常に緊張感のある講習でしたが、その分大変充実しており是非とも次のステップアップに向けて更に受講したいと感じる内容でした。

今回研修したことは、決して忘れず所属山岳連盟の後進達へしっかり伝達したいと思いますと共に、彼らにも次回以降の本研修会へ是非参加するよう促したいと思っております。

本研修会の運営に携われました日本山岳協会指導委員会講師・スタッフの皆様には大変お世話になり深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

(文責 三重県山岳連盟・草川明)



## 日本ユース選手権ボルダリング競技大会報告

5月14日、15日に第2回日本ユース選手権ボルダリング競技大会は鳥取県倉吉市で行われ、40都道府県から約230名の選手が参加した。

大会中、予選は多くの選手が一斉に登る必要があるために昨年と同様に予選は8課題を最大5回までアテンプトできるコンテスト方式で行われた。この方式では選手の順位が激しく入れ替わるため選手達はスクリーンに映し出された結果速報を見ながら競技を行えるため非常に緊張感のあるクライミングが随所に見られ大会を盛り上げた。

15日の決勝では、予選を通過した各カテゴリー6名の選手達が設定された3課題に挑戦し、選手達の気迫ある登りに会場は大いに沸いた。

ユースCは男子の川又玲瑛(栃木)が3課題をすべて完登する圧巻の登りで初優勝し、女子は森秋彩(茨城)が安定した登りで接戦を制し初優勝した。ユースBの男子は昨年世界ユース選手権、アジアユース選手権に出場した小西桂(神奈川)が2課題を完登し僅差で優勝。女子は2月のボルダリングジャパンカップで活躍した有力選手が揃ったが、菊地咲希(東京)が接戦を制し見事初優勝した。

女子ユースAと女子ジュニアは予選・決勝ともに同一の課題で競技を行いユースAは戸田萌希(山梨)が予選1位の勢いそのままに初優勝し、昨年予選落ちした雪辱を果たした。ジュニアは大河内芹香(長崎)が田嶋あいか(三重)をボーナスのアテンプト差という僅差で初優勝した。

男子ユースAでは高難度の課題設定に苦しみながらも、ボーナスの獲得数という僅差で原田海(大阪)が昨年に続き優勝した。

男子ジュニアでは亀山凌平(岐阜)が緩傾斜のバランスを要する課題を1回で登り、その後も終始安定した



大会会場

登りで初優勝した。

今大会では、昨年よりも多くの参加者がありレベルも大人の大会同様に設定された難課題に選手達は苦しんだ。平松チーフルートセッターを中心にセットした課題にユース選手に新たな可能性を発見してほしいというメッセージを感じた。次世代を担うユース選手の素晴らしいパフォーマンスにより会場は大いに盛り上がり、未来のタレントを目の当たりにできた大会だった。(記 鳥取県山岳協会 安井博志)

### ロシア女性クライミングイベントの受け入れ報告

去る4月14日(先発隊は11日来日)から24日にかけて、ロシアの女性クライマーら11名が来日し、日本国内でクライミングや富士登山を楽しみました。国際委員会でその受け入れをしましたので、ご報告いたします。

もともとは2年前の協力依頼に始まります。ロシアの実業家女性クライマー Irina Morozova(イリーナ)がロシア山岳連盟の推薦をもって、日本でクライミングイベントを開催したいので協力してほしい旨の連絡がありました。イベントの趣旨は、国際交流と日本という国際的に未知のクライミングエリアを知ることなどです。国際委員会では国際交流の一環として、この申し出を受け入れることにしました。

「SAKURA WOMEN CLIMBING FEST—CONTEST」が正式なイベント名となります。

15日～17日の小川山では、イベント名にある通りコンペをしていました。それも我々には馴染みのないスピードコンペで、同じルートを全員が登るものです。そ



男女ユースC

れで順位をつけ、翌日はその順位に基づいてペアでマルチルートに登るコンペをしていたようです。5.13に登る女性もいましたが、多くはそれほどの実力者ではなく、初心者のような参加者もいました。

18日～19日の瑞牆山では登山組とクライミング組に分かれ、コンペではなく登山やクライミングを楽しんだようです。日本からは国際委員会からの呼びかけで、女性クライマー2名、男性クライマー2名に部分的に参加していただき、一緒に登りながらも案内役をしてもらったりして、スタッフのようにも動いていただきました。

20日からの富士山登山は彼女たちの当初からの希望でした。入山翌日は悪天のため停滞。22日に2名が登頂、他のメンバーは時間切れで途中引き返しになったようです。23日は東京に戻ってきて観光とささやかなさよならパーティーを催し、24日に帰国していきました。

全日程にわたって、事務局、国際委員会から7名が入替わりに彼女たちをアテンドし、運営手伝いや彼女たちの日常的なケアを行いました。

今回の受け入れを経験してみて、多くの反省点がありました。

- 語学力の問題：彼女たちは基本的にロシア語で、2人が英語を使い、そのうち一人は中国語も使えました。日本側は一部のスタッフを除き片言の英語で対応するのですが、やはり細かい意思疎通には苦労しました。
- ゲストの安全管理：全体についてもいえることですが、特に今回は富士山登山では無事に下りてくるまで心配でした。彼女たちはロシアではそれなりの登山家なので、自分たちの力で登山をしようとしています。受け入れ組織として彼女たちの安全を図る必要がありますが、かといって彼女たちにガイドを付けて登るようには強制できません。それは私達が海外遠征に行った時のことを考えれば理解できます。今後同様な受け入れ事案や、あるいは日山協主催の国際交流イベントを考える際に、ゲストに自由に楽しんで



いただくことと安全管理のバランスは難しい課題になると感じました。現実的には徹底した注意喚起を行い、誓約書といった手法をとる必要もあるのかも知れません。

- 事前調整の不足：これは語学力の問題とも重なりますが、海外とのメールのやり取りで細かい調整を迅速にすることが難しかったです。そのために行動予定や必要経費の調整は、来日後にまで遅れました。その他の反省、感想としては以下のような意見が出ました。
- 交流イベントとしては、あまり国際交流にならなかった。準備不足もあり、国内で参加者を募って集めるところまでできなかった。
- 国際イベントを受け入れたり、開催するための経験としては貴重であった。
- 日本の岩場や山の素晴らしさを知ってもらうことができた。また主催者のイリーナが、こんなに皆が好意的に動いてくれた国はない、と言っていたように、日本人のホスピタリティに触れて喜んで帰ってもらえたことは、今後の両国の交流のためにも収穫であった。

国際委員会では、今後も国際交流を活動の一つの柱にしていきたいと思っています。今回の経験を生かして、意味のある交流を考えていきたいと思っています。

(文責・国際委員長 澤田 実)

世界中のバックパッカーが憧れるロングトレイルを歩く

**限定 10名様** ジョン・ミューア・トレイル・トレッキング  
と世界遺産ヨセミテ国立公園 8日間

発着地 東京 出発日 7/22(金)・8/3(水)・9/9(金)

旅行代金 ¥658,000～¥698,000

※ 燃油サーチャージ(5月25日現在)は、不要となっておりますが、今後変更になる場合は、ご旅行代金ご請求の際にご案内いたします。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号 / 日本旅行業協会正会員 / ボランティア保証会員

**ALPINE TOUR SERVICE 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911  
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557  
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

日本山岳会百十周年記念出版

**改訂 新日本山岳誌**  
日本山岳会編 この10年間で「動いた」日本の4000山を、会員の脚で再調査して改訂した最新の山岳大事典。18000円

**インド・ヒマラヤ** 日本山岳会東海支部編  
この地域の日本初の最新登山記録集成。概説、概念図、写真、登山記録、登山史、文献を集約した必携の書。6000円

**ヒマラヤの東山岳地図帳**  
中村保 地球最後の未踏峰の宝庫(中国深奥部)を多数の写真・地図で明らかにした世界初の詳細な山岳地図帳。10000円

606-8161 京都市左京区 一乗寺本町15  
www.nakanishiya.co.jp/ **ナカニシヤ出版** TEL.075-723-0111 FAX.075-723-0095 (価格は本体価格)

## 第91回 Mountain World

### ネパール・ヒマラヤ 登山復興の春

#### 池田常道

ネパール全土に甚大な被害をもたらした大地震(昨年5月号本欄参照)からまる1年、全面的な復興には程遠い状況ながら、登山の面では往時の隆盛を取り戻す兆しが見えたようだ。昨年キャンセルされた登山許可を向こう2年間有効とする措置が打ち出されたため公募隊はエヴェレストに戻ってきたが、外国人登山者に対する許可数は259と、例年を下回った。以下は、8000m峰における今季の暫定リザルトである。

#### エヴェレスト (8848m)

地震によるアイスフォールの被害が致命的なものではなかったことは、昨秋栗城史多隊が入山した際にアイスフォールドクターが確かめていたが、サウスコルから頂上までルートが開けたのは5月11日。9人のシェルパが登頂したが、ヒラリー・ステップ手前の雪が深かったため手間取り、頂上に着いたのは午後5時5分だった。翌日から徐々に登頂ラッシュとなり、19日から始まった2回目の好天期間にはネパール側だけで200人以上が頂上を目指した。

なお、20日から21日にかけて公募隊クライアントのオーストラリア女性マリサ・ストリドムとオランダ男性エリック・アーノルドがサウスコルで死亡。インド隊のパレシュ・チャンドラ・ナートとゴータム・ゴージュは南東稜を下降中に行方不明、スニタ・ハズラ(女性)とスバス・ポールは負傷して倒れているところを救助された。チベット側のルートが開通したのは19日で、ネパール側と合わせて登頂550以上(うち無酸素登頂5)、遭難死6という結果となった。

#### ローツェ (8516m)

ルート工作隊のシェルパ、アン・フルバが5月19日に頂上直下100mで滑落死。ルートは完成せず、登頂者なし、遭難死1に終わった。

#### マカルー (8485m)

5月11日、強風について頂上を狙ったパキスタンのアリ・サドパラ(ナンガ・パルバット冬季初登頂者)とブルガリアのボーヤン・ペトロフは150m手前で引

き返し、7650mに泊まって強風を避けたニヴェス・メロワとロマーノ・ベネトのイタリア人夫妻が翌日登頂、そろって8000m峰13座を達成した。その後23日に前記ペトロフを含む約29人が登頂。なお12日夜、C2で2人が一酸化炭素中毒で死んだ。登頂33、遭難死2。

#### チョー・オユー (8188m)

5月4日に4人、15日にも12人前後が頂上に立った。登頂15以上、遭難死なし。

#### ダウラギリ (8167m)

5月中旬の攻撃が失敗して大半の隊は撤収したが、19日に5人が頂上に立った。セブンサミット・トレックス隊のインド人ラジブ・バッタチャリヤはC3上部で同行したシェルパに見捨てられた。登頂5、遭難死1。

#### マナスル (8163m)

深い雪と悪天候に行き悩み、オランダ海軍隊10人は頂上直下まで。スロヴァキアのペーテル・ハモールとルーマニアのホリア・コリバサヌが5月10日に登頂した。このふたりは新ルートの北稜を目指していたが、4900mで諦めた。ハモールはこれで13座となり、14座完登に王手をかけた。登頂2、遭難死なし。

#### アンナプルナ (8091m)

ブルガリアのボーヤン・ペトロフが4月30日に登頂。翌日にも77歳のスペイン人カルロス・ソリアを含む多数が頂上に立った。ペトロフとアタナス・スカトフは続いてダウラギリを試み、マカルーにも登頂した。ソリアはこれで12座目、韓国のキム・ミゴンは13座目の登頂を達成した。登頂約30、遭難死なし。

#### シシャパンマ (8027m)

南西壁の新ルートを狙ったスイスのウエリ・シュテックとドイツのダーフィット・ゲトラーは、ポーランド＝スイス・ルート(1990年)を7800mまで、英国ルート(1982年)を7600mまで往復するにとどまった。このふたりは順応過程で、1999年に雪崩で行方不明になったアレックス・ロウとデイヴィッド・ブリッジズ(いずれもアメリカ)の氷漬けになった遺体を発見した(前号の記事参照)。北面通常ルートはコンディションが悪く、4月24日にスイスの公募隊コプラー&パートナーの2人がクレバスに落ちて亡くなった。登頂なし、遭難死2。

## 「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

山梨県：醍醐山(だいごやま 634m)

## ふるさとの山を復活

どこにもあるポピュラーなふるさとの里山である。醍醐山(634m)は戦前戦後開拓地として食糧確保のため畑に開墾され、農林業と共に栄えた山である。その後、社会の発展と共に人里離れ急激な過疎化の進行と共に荒れ果て、忘れ去られた山であった。たまたま東京スカイツリー開業年に標高が同じ高さであることから、地元身延町及び山梨県山岳連盟の有志等100人のボランティアにより、全長7kmにわたる登山道の整備や看板の取付を行い、「山のスカイツリー：ムサシ」として復活した。麓には武田信玄公の治癒で有名な下部温泉があり、アプローチのない駅から駅で「山と温泉」が楽しめる。

整備して3年半ではあるが、県内外から多くの登山者が来訪した。標高差400m程度の山は初心者・老若男女でも登れ、春・秋の一斉登山では、3歳児から80歳代の高齢者まで参加する等、年代を超え登山人口の底辺を広げたことは間違いない。登山道整備後は、「醍醐山を愛する会」が発足、現在町内外に多くの会員を有し、醍醐山をモチーフに下部温泉等周辺地域の活性化を目的に、地域の宝として多数の事業が展開している。詳しくは「醍醐山ブログ」楽天・フェイスブックで更新中。

## 山の紹介

山梨県南部の富士川・常葉川に挟まれた身延町(旧下部町)にある独立峰で、南アルプス早川町玄関口に位置する。山塊は主峰の醍醐山、西山、上ノ山の3峰からなり、山梨県北部と静岡県を結ぶ中間の要所通信基地として、古く戦国時代は狼煙台、昭和30年代には頂上にテレビ塔が建設されその役目を果たしてきた。現在建設中の中部横断自動車道が真下を通り、完成すると下部温泉・早川ICから登山口まで数分の位置になる。

同じ山名は京都：醍醐寺にある醍醐山(だいごさん)の2ヶ所のみで、中腹にある同音名の太子集落(以前は太子と書いたようだ)と共に大変気品のある呼び名だが、その根源は不明。かつて頂上付近は開墾され展望が効き、一面畑でサツマイモ等の作物、炭焼き・薪作り・養蚕が主業で太子集落はじめ居住地が点在して



新春の醍醐山

いた。

社会の産業構造の変遷と共にその役目を終え、人々は転出し山全体が木々で覆われ、その面影は消えつつある。しかし春の新緑・秋の紅葉、夏は涼しく冬は陽だまりハイク等春夏秋冬、自然を五感で体感できる手頃の山である。また学習の森と位置づけられ、樹木名板が多数表示されている。

## コース紹介

登山口は3ヶ所あるが、JR甲斐常葉駅から下部温泉駅へ縦走する「山と温泉」コースがお薦めである。駅より登山道随所に多数の矢印看板がある。また頂上まで2.7kmの道程100mごとの距離看板まで整備されている。樹林帯を35分ほど歩くと鳩打峠に着く。数分下に鳩打隧道登山口がある。ここより広く明快な登りとなり、林が開けると毛無山山塊が圧巻に見える。急登しやや平坦地の一色平に着く。眼下にはホテルの里：一色集落が見える。最終の階段を登ると旧テレビ塔が現れ頂上に着く。昔の畑の面影は無く、一面雑木に覆われ視界は冬以外きかない。頂上は平坦地でモミジが多く春の新緑・秋の紅葉時には快適な自然空間を醸し出す。西に若干下り展望台に着く。ここから山梨県南部の静岡県境までの展望が開け、眼下に富士川、五老峰・五宗山・三石山・貫ヶ岳・篠井山・十枚山・身延山・七面山・笹ヶ岳等山々の大パノラマが広がる。

頂上より南進し下山する。急斜面には階段状の段々が整備され問題無い。暫く下りると里山風景の人家が現れ太子集落に着く。無人ではあるが日本の郷愁を感じさせてくれる。ここより南西に15分で西山に行ける。太子からは鬱蒼とした樹林帯から沢沿いを下ると上之平集落に出る。湯之奥金山博物館へ立ち寄り、下部温泉で汗を流していくことをお薦めしたい。所要時間は約4時間。(山梨県山岳連盟)

# 平成28年度定時総会報告

去る5月29日(日)に東京渋谷の岸記念体育会館で平成28年度定時総会が開催された。

総会に先立ち八木原会長より、以下の挨拶があった。

「尾瀬の富士見小屋がクローズとなった。尾瀬であっても人気のないコースの山小屋は淘汰される。都岳連も大阪府岳連も加盟団体が最盛期の半分まで減少している。労山も2万人を切り、日本山岳会も5千人を切った。この登山界の現状を直視しなければならない。群馬県では6つしかないクライミングジムのオーナーに集まって貰って、連携していくことになった。また、岳連、労山、JAC群馬支部が集まって山岳団体連絡協議会を立ち上げた。先ず岳連が声がけして、動かなければ前には進めない。」と挨拶。

八木原会長の挨拶に続いて、定款第16条に定めるところにより、八木原会長が本会議の議長となり、定款第18条第1項に定める定足数の充足を確認して、本会議の開会を宣言した。

次いで、定款第20条第2項に基づき、議事録署名人を八木原議長及び古屋寿隆、瀧本健を選任して、議案の審議に入った。

## 議 事

### (1) 議案第1号 平成27年度事業報告について

小野寺事務局長が説明を行い、議案第1号は、異議無く賛成60(出席57、委任3)、反対0で承認可決された。

### (2) 議案第2号 平成27年度収支決算報告及び監事監査報告について

相良理事が説明を行い、その後、内藤監事より監査報告及び監査所見の報告があった。監事からは、監査所見への対応と考え方を後日監事に提出するよう求められた。

補正予算及び経常費用の旅費交通費、諸謝金、委託費、競技大会経費等についての質疑応答の後、議案第2号は、賛成60(出席57、委任3)、反対0で承認可決された。

## 報 告

### (1) 報告第1号 平成28年度事業計画と収支予算について

小野寺事務局長より資料に基づき、平成28年度の実業計画と収支予算について報告された。

山岳スキー競技大会中止の経緯説明を求められた。

### (2) 報告第2号 平成27年度日本山岳協会山岳共済会事業報告及び収支決算報告について



尾形副会長より資料に基づき、平成27年度の事業報告と収支決算が報告された。

### (3) 報告第3号 会長諮問委員会答申を受けて

小野寺事務局長より資料に基づき、会長諮問委員会からの答申について説明があった。

答申の報告であったが、答申内容への質問・意見が相次いだ。

### (4) 報告第4号 創立60周年記念事業募金及び熊本地震義援募金について

小野寺事務局長より資料に基づき、平成28年度事業計画の創立60周年募金を熊本地震義援募金に切り替える旨、説明があった。

### (5) その他

#### ① 第55回全日本登山大会(予報)について

松本会長(島根)より資料に基づき、実施概要が説明され、多くの参加を呼びかけられた。

#### ② 祝日「山の日」記念事業について

尾形副会長から資料に基づき、一連の「山の日」記念事業の説明があった。

#### ③ 登山届と山のグレーディングについて

木下会長(岐阜)から岐阜県条例の登山届と山のグレーディングについて説明があった。

#### ④ 「山の日」記念グッズ・手拭について

阿部会長(新潟)より「山の日」記念グッズ・手拭の紹介があった。

#### ⑤ 長野県登山条例について

唐木会長(長野)から28年7月から施行される長野県登山条例について説明があった。

#### ⑥ 「遥かなる山」の紹介について

小林会長(山口)から山口県立美術館での山岳風景画展覧会の案内があった。

以上をもって全ての議事の審議を終了したので、議長は14時15分閉会を宣した。

#### 〈出席者〉

八木原啓明会長、尾形好雄・國松嘉伸・高橋時夫・亀山健太郎副会長、小野寺齊・西内博・仙石富英・森下健七郎・京才昭・水島彰治・瀧本健・中瀬和徳各常務理事、相良忠麿・北村憲彦・増山茂・小野倫夫・齋藤喜代志・小宮山稔、牧野治生・亀井正明・伊藤克己・大西俊一・峯本典寛・下田泰義各理事、服部一雄(青森)、伊藤吉樹(山形)、三森一男(福島)、二階堂章信(茨城)、喜内敏夫(栃木)、石倉昭一(埼玉)、蛭田伸一(千葉)、古屋寿隆(山梨)、阿部信一(新潟)、唐木真澄(長野)、永山義春(富山)高田和彦(石川)、滝田博之(静岡)、安藤武典(愛知)、木下喜代男(岐阜)、四方宗和(京都)、中村久住(大阪)、中西研一(兵庫)、吉村忠明(奈良)、小比賀利雄(和歌山)、松本実(島根)、小林弘之(山口)、木村康男(香川)、原秀樹(徳島)、宮崎良平(高知)、足達敏則(福岡)、多田修(佐賀)、工藤文昭(熊本)、古里亜夫(宮崎)、鮫島寛行(鹿児島)、雨宮節(沖縄)、前田善彦(高体連)以上57名

#### (委任者)

吉田弘司(宮城)、山崎裕晶(岡山)、波多野英哲(大分)

#### 〈同席者〉

監事：内藤順造、岡本忠良、中島正喜

顧問：国澤鎮雄、城隆嗣、本木總子、  
神崎忠男

委員長：角田元(A D委員長)

(※平成27年度事業報告は誌面の都合で、次号に掲載します)  
(記 尾形好雄)

## 平成28年度理事会(第1回) 報告

日時 平成28年5月14日(土) 10時30分～15時

場所 岸記念体育会館504, 505会議室

出席者 理事：八木原、尾形、高橋、亀山、小野寺、西内、仙石、瀧本、水島、森下、京才、中瀬、相良、北村、小野、齋藤、伊藤、峯本、下田各理事 以上19名

監事 内藤、岡本、中島各監事

欠席者 國松副会長・大西、(共に日本ユース選手権ボルダリング競技大会出席のため。)増山、小宮山、牧野、亀井各理事、合計6名

#### 開 会

小野寺事務局長より、出席理事19名、監事3名よって、定款第33条第1項に定める定足数を充足しており会議は成立することが報告された。

会議に先立ち、熊本地震の犠牲者に対して黙祷を奉げた。

次いで定款第32条第1項の定めにより、八木原会長が議長となり、定款第34条第2項に基づき議事録署名人を八木原会長、内藤・岡本・中島各監事として議案の審議に入った。

#### (1) 報告第1号 平成27年度山岳共済会事業報告及び収支決算報告について

尾形副会長から資料に基づき報告され、内藤監事が適正との監査報告を行った。

●報告第1号は、出席理事全員が了承した。

#### (2) 議案第1号 平成27年度事業報告について

小野寺事務局長より議案説明を行い、説明終了後、議長が議場に諮った。

理事会と主催事業の日程バッティングについて質疑応答があった。

●議案第1号は、賛成19、反対0で承認可決された。

#### (3) 第2号議案 平成27年度収支決算報告及び収支決算報告に関わる付帯議決について

##### 監事監査報告

小野寺事務局長が提案理由を説明し、続いて相良財政担当理事が収支決算報告を行った。

一部数字の訂正があり、本来は公認会計士に見てもらった後に監査するのが本筋である、と指摘があった。

内藤監事から会計の処理・執行は適正との監査報告と監事所見が述べられた。

●議案第2号は、賛成19、反対0で承認可決された。

#### (4) 議案第3号 会長諮問委員会答申を受けて

小野寺事務局長が資料に基づき説明した。

答申された名称変更及び組織体制の見直し等の対応について質疑応答がなされた。

●議案第3号は賛成19、反対0で可決した。

#### (5) 議案第4号 正会員の入会について

小野寺事務局長より、以下の正会員の入会が諮られそれぞれ賛成19、反対0で入会が承認された。

吉田弘司氏(宮城岳連会長)、伊藤吉樹氏(山形岳連会長)、三森一男氏(福島岳連会長)、波多野英哲氏(大分岳連会長)

## 9. その他

#### (1) 創立60周年記念事業募金と熊本地震義援募金について

小野寺事務局長より平成28年度事業計画の創立60周年記念事業募金を熊本地震義援募金に切り替えたい旨の報告があった。



# 平成27年(2015年)度 収支決算報告 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

## 貸借対照表

(単位:円)

科目	当年度 (H28/3/31)	前年度 (H27/3/31)	差異
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金・預貯金・郵便振替	40,675,636	42,616,466	△ 1,940,830
未収金	6,898,440	4,556,228	2,342,212
前払費用	1,257,660	206,810	1,050,850
流動資産合計	48,831,736	47,379,504	1,452,232
2 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産定期預金	30,000,000	30,000,000	0
基本財産合計	30,000,000	30,000,000	0
(2) 特定資産			
国民スポーツ登山振興基金	15,495,367	15,495,367	0
退職給付引当資産	1,836,240	1,836,240	0
特定資産合計	17,331,607	17,331,607	0
基本財産・特定資産合計	47,331,607	47,331,607	0
(3) その他固定資産			
機械器具	121,250	32,150	89,100
什器備品	79,275	79,275	0
ソフトウェア	849,390	845,250	4,140
電話加入権	43,989	43,989	0
その他固定資産合計	1,093,904	1,000,664	93,240
固定資産合計	48,425,511	48,332,271	93,240
資産合計	97,257,247	95,711,775	1,545,472
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金	0	1,573,800	△ 1,573,800
未払費用	5,102,194	2,909,010	2,193,184
前受金	3,077,000	2,766,600	310,400
預り金	763,589	547,719	215,870
未払消費税等	505,600	650,800	△ 145,200
賞与引当金	1,360,662	1,360,662	0
流動負債合計	10,809,045	9,808,591	1,000,454
2 固定負債			
退職給付引当金	6,040,000	5,249,000	791,000
固定負債合計	6,040,000	5,249,000	791,000
負債合計	16,849,045	15,057,591	1,791,454
<b>III 正味財産の部</b>			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	30,000,000	30,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(30,000,000)	(30,000,000)	(0)
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	50,408,202	50,654,184	△ 245,982
(うち特定資産への充当額)	(17,331,607)	(17,331,607)	(0)
正味財産合計	80,408,202	80,654,184	△ 245,982
負債及び正味財産合計	97,257,247	95,711,775	1,545,472

(2) 競技団体のガバナンスとコンプライアンスについて  
尾形副会長から資料に基づき、相次いだトップアスリートの不祥事によってスポーツ庁から、各NFに対して選手に対するガバナンスとコンプライアンスの周知徹底をするように依頼があった旨、報告された。

### (3) 祝日「山の日」記念事業について

尾形副会長から資料に基づき、報告を行った。

記念切手は8月10日発売。「山の日」の歌は、3月21日に演歌系とポップス系のグランプリと優秀作品がそれぞれ選考され、演歌系歌手は北島三郎、鳥羽一郎/津吹みゆ、ポップス系歌手は加藤登紀子、走佑介。CD発売は8月11日を予定。

### 閉会

以上をもって全ての議事の審議を終了したので、高橋副会長が挨拶して、議長は15時、閉会を宣した。

## 理事会(第2回) 報告

5月29日(日) の定時総会終了後に引き続き岸記念体育会館で平成28年度理事会(第2回)が開催された。

理事会出席者は、相良理事を除く理事24名と監事3名が出席し、定足数を満たした。

先ず、定款第32条第1項の規定により、八木原会長を議長に選出して議事に入った。

議事の前に議事録署名人として、定款第33条第1項の規定により、八木原会長、内藤・岡本・中畠各監事を選出。

### 議事

#### (1) 議案第1号 会長諮問委員会の答申を受けて

会長諮問委員会の答申への対応や進め方について意見が交わされ、取り敢えず8月の臨時理事会開催が承認された。

#### (2) 議案第2号 平成28年度収支予算に係る付帯決議について

平成28年度の予算執行をみて変更の必要性が生じた場合は、補正予算で対処し、補正予算案については、常務理事会に一任する旨が諮られ、承認された。

### 報告

#### (1) 報告第1号 平成28年度理事会(第1回) 議事録承認について

理事会(第1回)の議事録が承認された旨、報告があった。

以上をもって全ての議事の審議を終了したので、議長は15時30分、閉会を宣した。(記 尾形好雄)

### 〈平成27年度協賛各社及び助成金法人一覧〉

マムート・スポーツ・グループ・ジャパン(株)、キョウリン製薬ホールディングス(株)、(株)ゴールドウイン、三井住友海上火災保険(株)、(株)ゼロスタート、オリエンタルバイオ(株)、牛乳石鹸共進(株)、(株)スカイ・A、(株)好日山荘、ラ・スポルティバジャパン、田中産業(株)、(株)モンベル、(株)ヨシキスポーツ、レッドレンジャージャパン(株)、ピラミッドジャパン(株)、国際自然環境アウトドア専門学校、カモシカスポーツ横浜店、(公財)日本オリンピック委員会、(独)日本スポーツ振興センター(スポーツ振興基金助成金、スポーツ振興くじ助成金)、(公財)ヨネックススポーツ振興財団、日本山岳遺産基金 (敬称略、順不同)



## UIAA登山部会プラハ会議を終えて — 次期登山部会・部会長の選出 —

UIAA登山部会定例会議が4月22～23日に、チェコ共和国プラハで開催された。CMF (Czech Mountaineering Federation) チェコ山岳連盟の主催により、8ヶ国11メンバーが集まった。

会議は、まず、CMFのJiri委員より、チェコにおける主な登山活動の概要と現在15000人の会員を持つCMFの紹介、直面しているインストラクターの養成問題などが紹介された。

### 1. UIAA次期登山部会・部会長の選出

今会議の主たる目的は、10年以上務めてこられたPierre Humblet ハムレット部会長の任期満了に伴う次期部会長の選出であった。2人の候補者による登山活動歴、登山部会活動への抱負などに関するプレゼンテーションの後、白紙を含む3枚の投票用紙を渡され、投票を行った。



選挙の結果、イタリア山岳会(CAI:Club Alpino Italiano, Italian Alpine Club)のクラウディオ・ミルキオリ氏(Claudio Melchiorri)が選出された。Claudio氏は、現在、イタリアのBologna Universityで、ロボット工学の教授を務めている。その専門性から、日本のロボット工学研究者との交流が深く、在外研究員として日本での長期滞在の経験も持っている。現在、登山関係の研究では、日本の大学関係者と共同研究で道迷い登山者の上空からの搜索ロボットの開発を行っている。

登山履歴は、クライマー、アルピニストとして、いくつものルート開拓のキャリアを持つ一方で、登山教育ではUIAA, Training Standardの資格認定者と



して中心的役割を果たし、登山インストラクター指導に関して賞を受賞している。さらに、登山技術ならびに用具の安全性について強い関心を持ち、UIAA Safety Commission安全部会の委員として、各種登山用具の強度試験を実施してきた。現在は、事故の多いVia Ferrataビア・フェラータの安全性やグレイディングについて研究している。地元CAIでは中央登山学校の校長を務め、安全部会の委員も務める。

### 2. UIAA Mountaineering Commission 登山部会の活動紹介

従来、Mountaineering Commissionは、登山委員会と訳してきたが、登山医学学会の中島先生(元UIAA医療部会委員)によれば、Commissionは委員会ではなく部会であるとの指摘を受けてきた。さらに、日山協の組織図も参考にすると、その広範囲な活動規模から考え、今後、登山委員会ではなく登山部会と訳すことにした。

UIAA登山部会は3つの領域(技術、法令、倫理)を担当している。部会組織には、それぞれの領域に対応したTraining Panel登山教育パネル, Legal Expert Working Group (LEWG) 法律専門家ワーキンググループ, Traditional Values Working Group (TVWG) 伝統的価値観(登山倫理)ワーキンググループなどがある。

#### (1) Training Panel

Training Panelは、その規模拡大に伴い、Training Standard Working Group, より Training Standard Panelを経て、Training Panelと順次名称を変えてきた。今回の会議でも、活動目的、現状報告と問題点、戦略、新規計画などを議論する中で、予算収入が2016年5675€から2020年286436€まで50倍に拡大しているとの報告があった。世界規模で、確実に承認国を増やしており、アジア地区ではネパールがまず承認された。インドなどの国々が後に続く予定である。アジアの国々も関心が高まり、日山協も、間もなく挑戦が始まると期待している。

#### (2) LEWG

LEWG(法律系)は15人(正規8、準7)規模の弁護士や判事などの法律関係者の集団である。UIAA活動における法的問題、ドーピング問題をはじめ、登山事故訴訟問題などを扱う。登山事故訴訟データベースを構築し、各国間の凡例分析を行っているが、その内容については公開が禁止されている。

#### (3) TVWG

TVWG(倫理系)は登山家として有名なDoug

Scottを代表とするワーキング・グループである。このグループ活動でよく知られる標語To bolt or not to be. はポスターとなり、世界中の登山活動団体に配られた。最大の成果はUIAAの「Mountain Ethic Declaration 登山倫理宣言」がある。



今回の会議では、Phil氏による「登山における自由」について報告があった。安全に関する公共認識の変化や、個人の行動や意思決定への疑問などの変化により、自由が、如何に脅かされるか。メディア、政治家、公的関係者による否定的な報道や意見が自由な登山活動を阻害し続けていると報告した。そこで、如何にメディアと折り合っていくのか話し合われた。

### 3. 国際事故データの交換

国際山岳事故データの交換は、利用サーバーに関し、激しい議論があった。その結果、UIAAはCamp to Campのサーバーを利用するが、他の参加グループは独自のサーバーにリスク分散することになった。イギリスのMREW: Mountain Rescue, England and WalesとUIAAとの間でデータ交換交渉が行われている。

### 4. Pierre Humblet 部会長への感謝

最後に、長い間部会長の重責を担ってきたPierre氏に心から賛辞を贈りたい。Training Standardを世界レベルに押し上げ、登山界の背筋となるMountain Ethic Declarationなどを作り上げた功績は大きい。今後、LEWG(法律系)に残留し、活動を継続する予定である。更なる活躍を期待している。

(記 遭対副委員長・青山千彰)

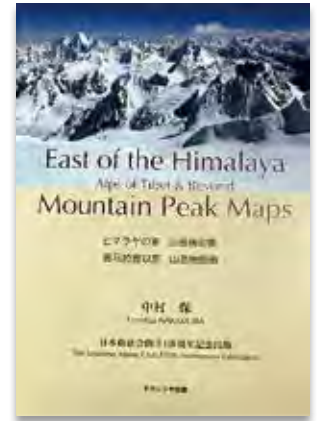


## 新刊図書紹介

### 『ヒマラヤの東 山岳地図帳』

中村 保 著

約半世紀前の1967年に「地図の空白部」(原題はBlank on the Map)という本が出版されている。ヒマラヤ名著全集(あかね書房)の第10巻でありシブトン著で諏訪田栄蔵訳である。勿論、原文はそれより以前に出版されており、その本に書かれたエリア(カラコルム北部)は既に説明が進んでいるのはご承知の通りである。しかし、まだあったのだ。



標題にある書の著者の中村保氏はその分野においては既に知られた人である。英国王立地学協会のバスクメダルをはじめ、数々の賞を獲得、寧ろ海外の方から日本に逆輸入で知られた感が強い。筆者は氏の出版計画について従前から聞かされていた。UIAAの総会に構成途中の本を持ち込んで宣伝したこともある。

著者の一連の著作を読んでいると、この壮大な構想は一朝一夕に出てきたのではないことがよくわかる。「深い浸食の国」から始まる三部作等をご覧になれば分かる通り、20年以上に亘り組織に頼らず、個人の力で、その地域の変容も含めて、事細かく報告・記述されてきた。現地の人に対するインタビューにより地域の文化や歴史など変遷が明らかになり、さらに妥協を許さない写真撮影(よい写真が撮れるまで夕方遅くまで、あるいは朝早くから)により、山の姿、それも美しい姿が明らかになっていく。その威容が欧米人の登山意欲をそそり、実際に登山し、それがまたフィードバックされ、という風により方向に連鎖されていったのだと思う。そして撮影した山々の連なりが3次元的に展開され、地域が立体的に明らかになっていったのであろう。従って地勢の概要がわかり易く表現されている。自分の目で見てきたからこそである。他の地図帳と違うところは、題名にもあるように「Mountain Peak Map」つまり、山の頂上に焦点をあてた地図なのである。

英語、日本語以外に中国語の表現も効果的だ。地域の特性として中国語の表現は欠かせない。そのことにより、まだ人を寄せ付け難いエリアである雰囲気醸し出している。

ロシア製地図はあったものの、実際的には空白であっ

た広大な山岳地域の姿を明らかにした本書は、山岳愛好家やこの地域に関心を寄せる人ばかりでなく、広く自然に興味を持つ人にとっても貴重な情報源になるであろうことは明白である。印刷、製本もしっかりとしており、優れた地図帳である。

(記 小野寺 齋)

A4版、333頁、定価：1万円(税別)、

出版社：ナカニシヤ出版 発行日 2016年1月15日

## 熊本地震義援募金

①銀行振込：みずほ銀行 渋谷支店

口座番号 普通預金 3382501

口座名 シャ)ニホンサンガクキョウカイ

②郵便振替：口座記号番号 00110 - 5 - 546693

加入者名 公益社団法人 日本山岳協会

※通信欄に「地震義援募金」と記入して下さい。

※5,000円以上のお振込の方で、ご希望の方には税額控除証明書を発行致します。通信欄に「税額控除希望」と記入して下さい。



平成28年度(28年5月)  
常務理事会・連絡部会報告

**日時** 平成28年4月28日(休)  
連絡部会18時～20時00分  
常務理事会20時00分～21時

**場所** 岸記念体育会館・103会議室

**出席者** 八木原会長、尾形・國松・高橋・  
亀山各副会長、小野寺、西内、森下、京  
才、瀧本、仙石各常務理事、西原、小  
日向各委員長、中島監事

**委任**：水島、中瀬各常務理事、松隈、  
相良、増山、澤田、山本、角田各委員  
長(22名中14名出席)

### 1. 議事

- 平成28年度4月常務理事会議事録の承認について(事前送付済)  
事前に配布しており、異議なく承認された。
- 平成28年度第1回理事会次第について  
小野寺事務局長から説明があり、一部訂正の後に承認された。
- 平成28年度定時総会議題について  
小野寺事務局長から説明があり、一部訂正の後に承認された。
- 平成27年度事業報告(案)及び収支決算報告(案)について  
小野寺事務局長から説明があり、事業報告については、監事監査の修正が反映されていることも報告された。  
決算報告については、競技力向上について第3次補正したにも関わらず大幅な赤字になり、法人会計の黒字が目立ってしまったと報告された。  
**監事監査報告**  
中島監事より、理事の業務執行、会計報告についても適正であることが報告された。
- 自然保護委員規程の一部改定について  
仙石登山副部長より提案説明があったが、議案の体をなしていないので、修正して次回理事会に諮ることになった。
- 日山協創立60周年募金と熊本地震募金について  
小野寺事務局長から平成28年度事業計画の創立60周年事業募金を熊本地震救援募金に切り替えたい、旨が諮られ、異議なく承認された。

### 2. 報告事項

- 会長諮問委員会答申書について  
尾形副会長から答申を受けてからまだ日が浅く、14日の第1回理事会において協議して指針を出し、総会に備えたい、と報告。
  - 国体・書面調査  
西原委員長から、質問が多岐に渡るため、各委員会に協力が要請された。
  - 平成27年度山岳共済会事業報告及び収支決算報告について  
尾形副会長から資料に基づいて説明があった。
  - 群馬県・岳連活動報告  
八木原会長から群馬県内のJAC支部、労山との山岳団体連絡協議会についての報告があった。
  - 登山倫理シンポジウムについて  
西内部長から5/22に開催されるシンポジウムについて説明があった。
  - ネパール募金報告  
小野寺事務局長が、募金活動は3/31をもって終了し、6団体総額27,942,390円集まり、そのうち日山協は205件、6,368,826円とのこと。
  - 正会員の入退会について  
福島岳連、宮城岳連の正会員変更が報告された。
  - BWC加須大会の報告  
小日向委員長から表彰式で優勝者の国歌を間違えるという大失態をした、と報告。
  - 規程整備のチームについて  
八木原会長から國松副会長をチーフとした規程整備チームを発足させた旨の報告があった。
  - マルコ会長との会見について  
尾形副会長からIFSCの五輪種目化対応について報告があった。
  - UIAA登山委員会・委員長について  
Pierre Humblet (Belgian Alpine Club) から Claudio Melchiorri (Italian Alpine Club) に交代したとのこと。
- ### 3. 後援報告、協賛等の依頼について
- 大阪府岳連「クライマーのパワーアップ基礎知識」後援名義使用
  - 産経新聞「登山の安全と健康シンポジウム」後援名義使用
  - 埼玉岳連「第9回コバトンボルダリングカップ2016」後援名義使用
  - 埼玉岳連「第17回KAZOクライミングカップ2016」後援名義使用  
上記4点については異議なく提案通り承認された。

### 4. 専門委員会動静

4月(4月1日～4月27日)

[報告]

(1)競技部

ア) 国体少年種別の年齢の見直しについて

第73回大会から中2も導入する。

イ) 岩手国体基準会議・リハーサル大会について

ウ) 競技運営委員会常任委員構成について

エ) 今後の会議日程について

オ) ブロック別研修会について

カ) 各委員会との情報共有について

キ) その他

・トッパスリート特別措置について

(2) デジタル情報チーム

4月11日(月) 出席者5名、委任1名

ア) HPリニューアル：3月末に発注し、早ければ7月頃から運用可能になる。

(3) 自然保護委員会

4月21日(木) 出席者14名、委任1名

ア) 山岳団体自然環境連絡会報告

3/25(於：労山) 廣田、松隈が参加

イ) 高校生の自然保護指導員任用の継続審議について

ウ) 常任研修会の実施について

植生保護の実情調査であることから、各自関心事をまとめたうえ、参加を確認

エ) 第40回自然保護委員総会について

テーマ：生物多様性(ライチョウを代表とする山岳鳥獣類の実情)

オ) 青少年自然体験活動指導者(NEALリーダー)について

カ) 平成28年度常任委員会の構成について

(4) 夏山リーダー検討会(第1回)

4月13日、都岳連会議室

ア) UIAAトレーニング規格と英国の規格について

イ) 夏山リーダー資格の創設を目指すマウンテントレーニングという協会があり、リーダーの資格を発行している

mountain walking & streakingに準ずる形で夏山リーダーの資格を創設するマウンテントレーニングでは10000人が講習を受講し、1500人がリーダーの資格を取得している

ウ) 夏山リーダー講習会および資格の作成の目的について

(5) 遭難対策委員会

4月16日(土)～17日(日) 出席者11名

ア) 長野県ガイドライン制定報告について

- ① 6月制定予定。
- ② 中部4県(長野、新潟、静岡、山梨)で歩調を合わせている。尚、群馬県も同様にグレーディング対応の立ち上げをしようとしている。北海道でも検討中。
- イ) 登山倫理シンポジウムについて
  - ① オリピックセンター国際会議棟 登山者のモラル、アクセス、自然保護、登山技術等を予定。
- ウ) 平成28年度総会(6/25(土)~26(日))について
  - ① 研修会講師: 原一樹 「山のグレーディングについて」
  - ② 各岳連へのアンケートについて
  - ③ 総会は3時間の中で多数のことは行い時間が押すが、前日は2時間半もある。このグループ討議の後半1時間を各県からの提案の討議時間にしてゆきたい。
  - ④ 加藤電機がヒトココと同様の機種を使う活用について
  - ⑤ 登山届けのコンパスとサンガクについて
- エ) 全山遭(7/8(日))について
  - ・山のグレーディングが中心になる。
- オ) 指導・遭対合同研修(8/20(土)~21(日))について

- ① 神奈川県山岳スポーツセンターで行われる。当日は20日10時集合~21日の15時で実施する。
- ② 研修課題について
  - カ) 無雪期のレスキュー(9/9(金)~11(日))講習会について
  - ① 応急手当と無雪期レスキュー
  - ② セルフレスキューについて
  - ③ レスキューテキストについて
  - ④ ツェルトの活用法について
  - ⑤ ワークレスキューについて
- キ) 一般登山者教育について
  - ク) S A R総会について
    - ・7月10(日)
  - ケ) レスキュー協議会について
    - ・日本山岳会が加盟した。
  - コ) 道標整備について
- (7) ジュニア普及委員会
  - 4月20(日) 19:00~21:00 出席4名 委任5名
- ア) なすかし雪遊び隊2016について
  - ・3/26~28に実施予定
- イ) 立山ジュニア登山教室2016について
  - ・8/17~20で予約済み
- ウ) その他
  - ・平成30年度中高年安全登山指導者講習会の沖縄県開催について
  - ・第57回全日大会・京都大会について

- ### 7. その他の重要事項
- (4月1日~4月27日)  
〔報告〕
- (1) ロシア山岳連盟11名来日
    - 4月11日(月)~24日(日) 於: 小川山、瑞牆山、富士山 小野寺事務局長、澤田国際委員長等
  - (2) U A A A 登山部会
    - 4月22日(金)~23日(土) 於: プラハ 青山遭対副委員長
  - (3) 日体協加盟団体事務局長会議
    - 4月13日(水) 於: シダックスホール 2 E ホール 小野寺事務局長
  - (4) 愛媛県西条市長来局
    - 4月13日(水) 於: 岸記念体育会館 尾形副会長
  - (5) 山岳6団体会議
    - 4月14日(木) 於: スポーツマンクラブ 尾形副会長、小野寺事務局長
  - (6) スポーツ界ガバナンス、コンプライアンスの問題に関する会合
    - 4月15日(金) 於: 文部科学省講堂 森下常務理事、中川事務局長
  - (7) 全国「山の日」運営委員会
    - 4月19日(火) 於: 四谷保健センター 集会室 尾形副会長
  - (8) I F S C クライミングWC 加須大会2016 記者会見
    - 4月21日(木) 於: 岸記念体育会館 八木原会長、尾形副会長、小日向委員長
  - (9) サンガクエントリー発表会
    - 4月21日(木) 於: 如水会館 八木原会長
  - (10) ミズノスポーツメントール賞受賞式
    - 4月22日(金) 於: グランドプリンスホテル新高輪 八木原会長
  - (11) I F S C クライミングWC ボルダリング加須大会
    - 4月23日(土)~24日(日) 於: 埼玉県加須市民体育館 八木原会長他
  - (12) 会計監査
    - 4月26日(火)~27日(水) 於: 岸記念体育会館 4 F 特別 内藤、岡本、中島各監事、尾形副会長他

## 寄贈図書

寄贈本	神戸大学山岳部	「山と人」20号	
	mountainkorea.com	「Man&mountain」2016 MAY No.319	
	雑誌	山と溪谷社	「山と溪谷」No.974
		(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.827
	mountainkorea.com	「Man&mountain」2016 JUNE No.320	
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第587号	
	横浜山岳会	「山」1007号 2016年5月	
	全国ボウリング協会	「JBCnews」第534号	
	Corean Alpine Club	「山」Vol.246	
	日本トレーニング指導者協会機関誌	「JATY EXPRESS」Vol.52	
	(公社)日本理学療法士会	「笑顔を決めない」No.20	
	FEEC	「VERTEX」265	
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」vol.25	
	日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.466	
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.457	
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.319	
	中華民国山岳協會	「中華山岳」《雙月刊》252	
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne 360」May 2016	
	三峰山岳会 平尾 英也	「岩つばめ」No.350	
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.496	
(公財)日本体育協会	「フェアプレインュース/スポーツニュース」5月16日号		
中国登山協会	「山野 CHINA OUTDOOR」2016 05 総213期		
Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.209 2016 May		
(公社)日本山岳会	「山」No.852		
東京野歩路会	「山嶺」No.1035		
日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」5月号第432号		
(株)モンベル	「OUTWARD」No.71		
おいらく山岳会	「山行手帖」No.678 '16.6		

**NPO法人 北丹沢山岳センター**

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL: 090-2252-3203 (衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL: 042-787-2276

和田峠「峠の茶屋」 TEL: 042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

**NPO法人 北丹沢山岳センター**

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会
- 南高尾城山陣馬サンセットトレイルレース実行委員会
- 峰山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

### 編集後記

新体制になって2年目に入った。広報委員会では昨年立ち上げたデジタル情報委員会によるHPのリニューアルが7月から随時オープン予定です。新鮮でホットな話題がありましたら提供願います。  
(広報担当 水島彰治)

**登山月報 第567号**

定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成28年6月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
 岸記念体育会館内  
 公益社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396  
 F A X 03-3481-2395

山岳雑誌

# 岳人

「岳」を愛するすべての人々に、山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いもの にしたい、そんな思いを込めて「岳人」をお届けしています。

「岳人」2016年7月号

## 【特集】名水の山

- ・最初の一歩をめぐる山旅 <甲斐信濃>
- ・ヤマトケルを極めた水 <伊吹山>
- ・名水に出会える山ガイド ほか



名水の山

7月号  
6/15発売

定価 680円(税込) / B5版

年間購読がおすすめです。

送料  
無料

年間購読  
特典

オリジナル  
聖地巡り会  
ペーパーナイフ  
プレゼント

通常単体価格12冊

年間購読12冊

8,160円(税込)

→ 7,480円(税込)

1冊あたり680円  
1冊分送料



## 夏山登山ガイドの決定版!

夏山シーズン、どこへ登ろうか  
迷っている読者のためのガイドムック。  
日本アルプスから八ヶ岳、東北、北海道まで  
日本各地の山の魅力をご紹介します。  
ハウツー、山小屋リストなど、使える情報も満載!



日本アルプスの  
楽しみ方

八ヶ岳を  
まるごと登る  
夏だから北へ!

定価 1,204円(税込) / A4版

好評  
発売中!

「岳人7月号」・「夏山」のお求めは、全国のモンベルストア、書店、ウェブサイトにて

<http://www.gakujin.jp>

文章どおしをい保証書

MS&AD

三井住友海上

# わたしの ゴール キーパー。

# GK

7月マシ保険 可保い出保険 先アIT中保険

[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)

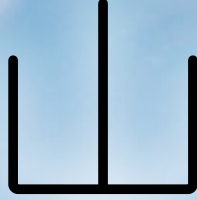
JMA

守ります。美しい日本の山。

祝

8月11日

(2016年より)



国民の祝日

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

<http://sangakukyousai.com>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL:03-5958-3396 FAX:03-5958-3397

E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月～金 10:00～17:00(祝日除く)

Webからも申込みます